

体育大会

体育大会は、例年生徒たちが最も楽しみにし、学習の合間に縫つて日々練習を重ねているイベントですので、好天に恵まれ滞りなく開催できることはこの上なく喜ばしいことです。

入場行進では、事前に自分達で制作したクラス旗を誇らしげに掲げ、威風堂々の行進を繰り広げてくれました。また、今年で三回目を数える、四年生による集団行動は、年々熱を帯びバージョンアップ

する六月三日、晴天の奈良県立橿原公苑陸上競技場において、平成二十六年度体育大会が催されました。

恒例になりましたが、年に一度全天候型の本格的なトラックで競技できる喜びを全身を使つたパフォーマンスで表現していました。



**平成二十六年度
体育大会結果**

優 勝	三年一組
準優勝	三年二組



聖心学園中等教育学校
学校通信「たけのこ」

第二号

発行 聖心学園中等教育学校
橿原市久米町二二二二番地
平成二十六年十月三日発刊

題字 田中七葉書

礼節実勇氣創造

今はあどけない生徒たちが、タケノコのようにすくすく育ち、しなやかでまっすぐな竹に成長してくれることを願って、学校通信を「たけのこ」と名付けました。

1. 体育大会
2. 体験の日《前期課程》
3. 学習合宿《前期課程》
4. 学習合宿《後期課程》
5. 全国高等学校総合体育大会 少林寺拳法部

クラス対抗では、クラスが一つになつて汗を流し、声を枯らしながら頑張っている姿が眩しく感じられました。より一層クラスの団結力が深まつたと思います。このような気持ちになるのも体育大会の醍醐味だと教員一同感じております。

最後になりましたが、保護者の皆さまには、早朝から夕刻まで、暑い中ご声援を賜りありがとうございました。

また、保護者と職員による借り物競争では多数の方々にご参加いただき、心よりお礼申し上げます。子供達にとつても心に残る体育大会になつたこと思います。



体験の日

一年生

第二回 郷土学習



六月十九日（木）、「日本の心の故郷」と言われる明日香村で、遠い昔に生きた人々を感じようと、飛鳥時代の旅に出かけました。明日香村一帯は古墳・史跡のようです。

生徒たちはサイクリングを楽しみながら、明日香村の豊かな自然の中での、色々な史跡を見学しました。万葉文化館ではボランティアガイドの方にお話をいただき、富本鏡などの説明に一生懸命にメモをとっている姿が印象的でした。

午後からはグループに分かれて、飛鳥資料館や飛鳥寺、亀石や石舞台古墳など仲間と一緒に行動して飛鳥を巡りました。天候にも恵まれ、昼食時はもちろんのこと、お話を聞いて研修している時も、サイクリングをしている時も、その時々にステキな表情をたくさん見せてくれました。また、学校では生徒たちが一生懸命に取り組んだ研究レポートの成果を三階コモンスペースに提出し、先輩たちや先生方からも高評で嬉しい言葉をたくさんいただきました。



毎年、短大の先生方が趣向をこらして生徒の興味をひくような作品作りを考えて下さいます。今年は暮らしを彩る「器」作りに挑戦しました。土器の造形には、使命感・喜怒哀楽・躍動感・幻想・優美など、様々な魅力が感じられます。

はじめて粘土に触れる生徒たちも多く、みんな真剣なまなざしで「器」作りに取り組みました。私たちの生活に慣れ深く存在する焼き物。花器・小鉢・碗・板皿・湯飲み・鉢の中から選択したものを作りました。



七月二十二日（火）、奈良芸術短期大学の河野榮一先生をはじめ、多くの先生方のご指導により一年生は陶芸の作品作りを体験しました。



梨園でのルールや採り方・食べ方の説明を受けたあと、果物ナイフを使って皮をむき始めます。四苦八苦しながらも、農園の人たちが丹精込めて育てられた梨は「甘くておいしい」と、歓声があがり、

いい感じです。心ゆくまでいたくことができました。一人五個までの梨狩りですが、多くの生徒は、二・三個食べて、残りは家族へのお土産にしていました。

第四回 梨狩り・壺阪寺・樅原市昆虫館

九月五日（金）一年生の第四回体験の日は、秋の味覚を満喫しようと、大阿太高原「博水園」で梨狩りに挑みました。



第二回 陶芸

梨をもぎとつて袋に入れる元気いいっぱいの生徒たちの表情からは笑顔があふれています。



殿の中で、壺坂寺の歴史について教えてくださいました。その後、自然に囲まれた中でおいしくお弁当を食べました。

最後は昆虫館の見学です。生態展示室では、昆虫の生態を肌で感じながら学習し、放蝶温室では、優雅に舞つていい蝶と戯れ、楽しくファーブル体験することができました。

二年生

二年生第一回目の体験は、大阪市中央区にあるNHK大阪放送局「BKプラザ」と高石市にある大阪ガス「ガス科学館」の見学でした。

三重塔、壮大なスケールの大
觀音像、大きな涅槃石像など
を見学し、ご住職は莊厳な拜

まず、午前中に訪れた「B-Kプラザ」では、クラス毎に分かれて行動しました。

一階では、テレビで見たことのある番組やキャラクター

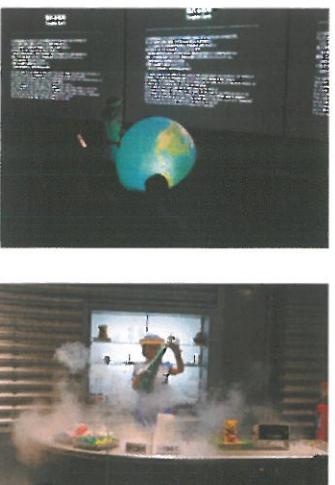
各クラスから数名が代表で実際の機材を使って「クロマキー効果」の体験や「アナウンサー」「お天気キャスター」にチャレンジしました。他の生徒たちは、モニターに映し出されるクラスメイトの表情やスピーカーから流れるくる友だちの声に歓声を上げ、楽しんでいました。

九階に上がるごとに、実際にドラマを収録しているスタジオの様子を窓越しに覗いたり、映像では実際より少し大きくな見えるため若干小さく作られている建物のセットなどを見学しました。



二年生の第三回体験の日では、奈良芸術短期大学の先生方のご指導のもと、「ウッド」と「テキスタイル」の班に分かれ、クラフト制作をしました。

ウッド・テキスタイル



午後に訪れた「ガス科学館」では、「触れる地球」に触つてみたり、「液化窒素」の実験を見学した後、クラス毎に分かれてガスや電気のエネルギーを使つたアトラクションを回りました。ここでは、ゲー

「ウッド」班は、木目豊かな置き時計を作りました。時計の本体となる材木を選ぶところから始まり、文字盤のデザインを焼きゴテで焼いて描いたり、木のチップを埋め込んだりして加工しました。最後に針をつけて完成しました。コテや電動ドリルの扱いに苦戦しながらも、オリジナルの時計を作ることができました。

「テキスタイル」班は、メモホルダースタンドを作りました。家族の顔をマスコット的にデザインするところで考えをふりしぼっていましたが、デザイン画ができあがる

に苦戦しながらも、オリジナルの時計を作ることができました。

A photograph showing a man in a red shirt working at a wooden workbench. He is focused on a task involving a large, dark-colored industrial machine or piece of equipment mounted on the bench. The background shows a workshop environment with other people and equipment visible.

していきました。強度を増すた
めに専用の針で何度も何度も
刺していくます。できあがつ
た作品は、どれも家族の特徴
をよくとらえた表情豊かなも
のでした。

いずれの班でも、作業が進むにつれて言葉数が少なくなったり、夢中で取り組む様子が見受けられました。



午後は、会場を「まほろば会館」から「お写経道場」に移して、「般若心経」の「お写経」を体験しました。

書き終えた生徒たちは、「心が落ち着いた」「すごく集中できた」「家族でまた来たい」など、異口同音に感想を述べていました。

世界遺産「法相宗大本山薬師寺」 伽藍拝観と法話お写経体験

第四回目の体験は法話とお写経でした。

午前九時三十分、近鉄西ノ京駅々前に集合した生徒たちは、先ず薬師寺内の「まほろば会館」において安田奘基録事様によるご法話を拝聴しました。



おられることが。さらに、葬儀を行わないお寺であること、「薬師寺」にまつわるお話をや仏教の歴史等をジョークを織り交ぜ一時間余り、解りやすくお話くださいました。

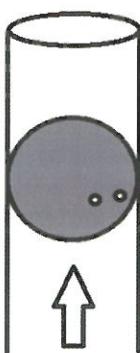
三年生

三年生の第二回体験の日は「大阪市立科学館で科学の不思議を体験しよう」がテーマでした。

「法話」と聞くとなんとか敷居が高く感じますが、導入部分で安田録事様が「君達が知っている、奈良県で有名なお寺はどこですか」という質問をされ、生徒たちが日々に、「法隆寺」・「東大寺」等と答えるとすかさず「君たちは、今どこに居るか解っていますよね。今、君たちの置かれている立場をよく考えようね。はい、もう一度」などと笑いを誘う巧みな話術に生徒たちはあつという間に惹き込まれていきました。そして本題に入ると「法相宗」は「南北六宗」の一つで、「法相宗」のお寺には「薬師寺」と「興福寺」があり、この二つのお寺が交互に「大本山」を務め

とおられることが。さらに、葬儀を行わないお寺であること、「薬師寺」にまつわるお話をや仏教の歴史等をジョークを織り交ぜ一時間余り、解りやすくお話くださいました。

その後、同録事様の案内でお伽藍を拝観させていただきました。お伽藍拝観では、改修中の東塔のお話や、各建物の柱が伽藍の中心に向けて傾けてあることなどを教えていただき、お堂では録事様の読経で全員が合掌・礼拝しました。



サイエンスショーでは目に見えない空気の力によっておこる様々な現象を、実験を通して紹介していただきました。

球がスースッとパイプの上にのぼった瞬間、生徒たちから大きな歓声が上がりました。



館内見学の後、何人かの生徒は「カプラ」とよばれる木製の積み木をいかにきれいに、いかに高く積み上げるかを競い、写真のような高さにまで積み上げていきました。（ちなみに世界記録は十八m、日本記録は十二・六mだそうです。）

また、染める作業を行う際、染色液は茶色のような色をしており、独特なおいも出していたので生徒達は本当にきれいな藍色に染まるのか不安を抱きつつ作業をしているようでした。しかし、きれいなキヤラクターなどをデザインして楽しんでいました。また、自分のイメージした通りカラフルに色付けを行い、作品を完成させていました。スポンジを使って色を塗るなど知らなかつた知恵を学ぶこともできたことや、普段何気なく使つている物を完成させるためにどれほどの労力が必要なのか知れたことなど、ただ体験するだけではなく、その中から多くのことを感じ取つていてる生徒も多数いました。

「本藍染」は、手ぬぐいやTシャツに輪ゴム、割り箸、クリップなどを使って縛り、絞り染めを行いました。最初はどのような物が出来上がるのかイメージが湧かず、なかなか作業が進みませんでした。

また、染める作業を行う際、染色液は茶色のような色をしており、独特なおいも出していたので生徒達は本当にきれいな藍色に染まつた作品を一つ完成させると、その楽しさを知つたのが創作意欲をかきたてられ、次から次へと作品制作に取り組んでいました。

「綴織」は、様々な色の糸を紡ぐどこから始まります。

そして、自分で簡易の織機を作り、それで自分の描いたデザインを紡いでいきます。このような体験をしたことがある生徒はおらず、最初はどのようにするのか、どのような作品ができるのかという不安を感じながら先生たちに助けられながら行つていまし。取り組むにつれ慣れてきて、友達同士で助け合いながら作業を行つていました。

「上手に染められた。染めようにするのか、どのような液体のにおいが忘れられない。」「藍染の液体を作ることに感謝の気持ちでいっぱいでした。」
(本藍染)



「ステンシル」は、ランチョンマットに好きな絵をデザインし、それに色を付けて完成させるという体験でした。生徒たちはそれぞれに頭を悩ませながらも、思い思いに好きなキャラクターなどをデザインして楽しんでいました。また、自分のイメージした通りカラフルに色付けを行い、作品を完成させていました。スポンジを使って色を塗るなど知らなかつた知恵を学ぶこともできたことや、普段何気なく使つている物を完成させるためにどれほどの労力が必要なのか知れたことなど、ただ体験するだけではなく、その中から多くのことを感じ取つていてる生徒も多数いました。

「綴織」は、様々な色の糸を紡ぐどこから始まります。

そして、自分で簡易の織機を作り、それで自分の描いたデザインを紡いでいきます。このような体験をしたことがある生徒はおらず、最初はどのようにするのか、どのような作品ができるのかという不安を感じながら先生たちに助けられながら行つていまし。取り組むにつれ慣れてきて、友達同士で助け合いながら作業を行つっていました。

第三回目の体験の日は、奈良芸術短期大学の先生方のご指導により、「ステンシル」、「本藍染」、「綴織」をグループに分かれて体験しました。

「ステンシル」は、ランチョンマットに好きな絵をデザインし、それに色を付けて完成させるという体験でした。生徒たちはそれぞれに頭を悩ませながらも、思い思いに好きなキャラクターなどをデザインして楽しんでいました。また、自分のイメージした通りカラフルに色付けを行い、作品を完成させていました。スponジを使って色を塗るなど知らなかつた知恵を学ぶこともできたことや、普段何気なく使つている物を完成させるためにどれほどの労力が必要なのか知れたことなど、ただ体験するだけではなく、その中から多くのことを感じ取つていてる生徒も多数いました。

また、染める作業を行う際、染色液は茶色のような色をしており、独特なおいも出していたので生徒達は本当にきれいな藍色に染まるのか不安を抱きつつ作業をしているようでした。しかし、きれいなキヤラクターなどをデザインして楽しんでいました。また、自分のイメージした通りカラフルに色付けを行い、作品を完成させていました。スponジを使って色を塗るなど知らなかつた知恵を学ぶこともできたことや、普段何気なく使つている物を完成させるためにどれほどの労力が必要なのか知れたことなど、ただ体験するだけではなく、その中から多くのことを感じ取つていてる生徒も多数いました。

「布に様々な色をつけられて楽しかった。きれいにできたら、次から次へと作品制作に取り組んでいます。

「綴織は一生することがないと思い選んだ。実際、すごく難しかつたけど、友達や先生が手伝ってくれてうまくできたと思う。」「家でも作れるので、いい体験になつたと思う。」
(綴織)

どのグループも「染色」という体験を楽しみながら真剣に取り組み、完成した作品に満足感と充実感を実感した様子でした。



《生徒たちの感想》

「布に様々な色をつけられて楽しかった。きれいにできたら、次から次へと作品制作に取り組んでいます。

「綴織」は、自分で簡易の織機を作り、それで自分の描いたデザインを紡いでいきます。このように体験をしたことがあります。

「上手に染められた。染めようにするのか、どのような液体のにおいが忘れない。」「藍染の液体を作ることに感謝の気持ちでいっぱいでした。」
(本藍染)



九月五日、中等三学年の第四回の体験の日では『裁判所傍聴体験と、人と防災未来センター』へ出かけました。

八月三十日には南弁護士に来ていただき、弁護士になるまでの過程や、司法試験受験、また仕事のやりがいや、苦労についての事前学習を行いました。学習の最後には、テレビドラマとは違う実際の裁判の様子について話を聞くことができました。体験の日当日は実際の傍聴の前に裁判所の方から説明があり、裁判官や、弁護士、検事の方たちの席に座させていただきました。裁判が始まると、法廷内は張り詰めた空気となり、三年生のみんなも緊張した面持ちで傍

¹⁰ See also the discussion of the relationship between the two in the section on the "Economic Crisis."

A group of approximately 25 students in school uniforms (white shirts and dark trousers) are posed in three rows on a paved area in front of a modern glass building. The building has a large digital sign at the top that reads "100" and "175th Anniversary". The students are arranged in three rows: a back row standing, a middle row kneeling, and a front row sitting or kneeling on the ground. They are all looking towards the camera.

中見舞いにお越しいただき、昼食時に全員が集まる広間で、学習合宿にまつわる開校当初の趣旨や意義をお話しくださいました。生徒たちは先生方のお話に、緊張の面持ちで傾聴していました。

熱帯夜の続いた今夏の気候ではありましたが、やはり山

初日の開講式には、浦前副校長先生が駆けつけてください、全生徒に向けて激励のお言葉をいただきました。また二日目の中澤学園長先生も陣

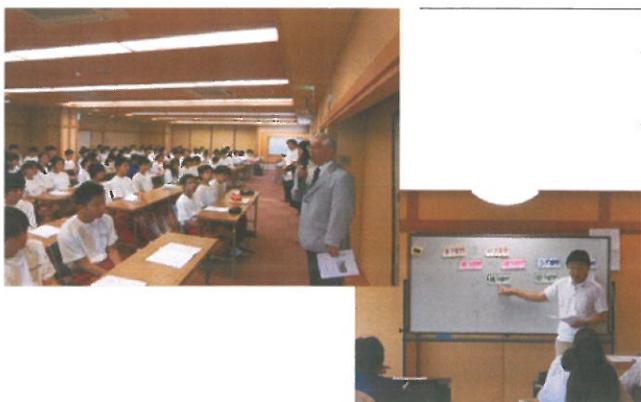
今年の合宿は、おとどし去年よりもテキパキと物事が行えたと思います。去年は、寝る時間が極端に遅かつたため授業に影響が出てしまいましたが、今年はあまりそういうことはありませんでした。夜も早めに寝て、朝も早く起きることの多い「早寝早起き」のサイクル

■ ■ 學習合宿 《前期課程》

の気候は平野部よりも過ごしやすく、生徒たちは早朝から深夜にいたるまで、先生方のお言葉にあつた自主的・主体的な学習に取り組み、クラスメイトと切磋琢磨していました。途中、少し体調を崩した生徒もみうけられましたが、「後れを取るまい」と直ぐに復帰していました。

つまり深く関わらない人たちともいつも以上のことを語り合うことができました。その中でみんなの意外な一面や知らなかつたことがたくさん知れてとても嬉しかつたです。全體としては、最後の合宿として自分なりに納得のいく終わり方ができたので良かつたと思ひます。

がきちんとできていたと思い
ます。荷物の整理整頓は一日
ごとにキャリーバックの中身
を整理できていたので帰りに
荷物が入りきらないというこ
とにはなりませんでした。友
達との交流については、部屋
割りの関係もあって、普段あ
まり深く関わらない人たちと
もいつも以上のことを語り合
うことができました。その中
でみんなの意外な一面や知ら
なかつたことがたくさん知れ
てとても嬉しかったです。全
体としては、最後の合宿とし
て自分なりに納得のいく終わ
り方ができたので良かつたと
思います。



九月五日、中等三学年の第四回の体験の日では、裁判所傍聴体験と、人と防災未来センターへ出かけました。

九月三十日には南弁護士に会いました。弁護士になる過程や、司法試験受験、仕事のやりがいや、苦労についての事前学習を行いました。学習の最後には、テレノマとは違う実際の裁判官について話を聞くことになりました。体験の日当日は、裁判所の傍聴の前に裁判所の説明があり、裁判官や、検事の方たちの席に座っていました。裁

始ると、法廷内は張り空気となり、三年生の緊張した面持ちで傍聴に臨みました。裁判の傍聴を通して法律に関わる仕事を通じて、人生を左右する責任重大な仕事であるということを認識しました。

午後からは神戸にある『人と防災未来センター』へ行きました。ここは阪神・淡路大震災の経験と教訓をわかりやすく展示し、防災・減災について情報を発信する施設です。特撮とCGを駆使した地震発生の瞬間を再現した映像を見て、地震のすさまじさを改めて学ぶことができました。

恒例の学習合宿は、八月二十五日から二十八日までの三泊四日の日程で例年と同様、吉野山の「芳雲館」で実施しました。

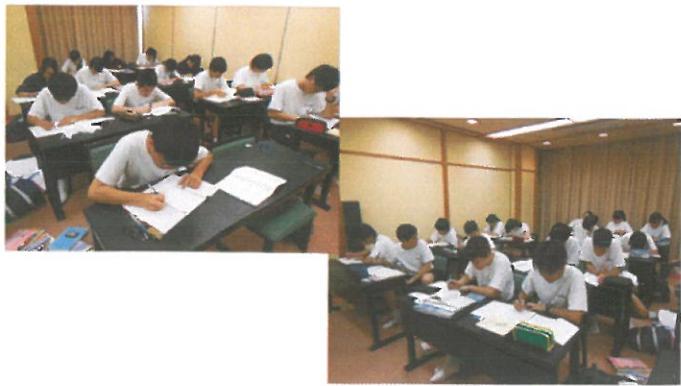
■ ■ 学習合宿 《前期課程》

例年と少し違ったことは、前期課程の三学年が一齊に実施したという点でした。一六〇名を超える大所帯に膨れ上がり、二年一組の教室は「芳雲館」に隣接した「喜蔵院」をお借りしての学習になりました。

初日の開講式には、浦前副校长先生が駆けつけてください、全生徒に向けて激励のお言葉をいただきました。また二日目の中澤学園長先生も陣中見舞いにお越しいただき、昼食時に全員が集まる広間で、学習合宿にまつわる開校当初の趣旨や意義をお話しくださいました。生徒たちは先生方のお話に、緊張の面持ちで傾聴していました。

今年の合宿は、おとしそうよりもテキパキと物事が行えたと思います。去年は、寝る時間が極端に遅かったため授業に影響が出てしまいまし

たが、今年はあまりそういうことはありませんでした。夜も早めに寝て、朝も早く起きる「早寝早起き」のサイクル



《後期課程》

第四学年

八月四日(月)、台風の影響か雨が心配されるなか、権原神宮駅前をバス二台で三泊四日の勉強合宿のために、一路高野山に向けて出発しました。

高野山に近づくにつれ心配していた雨がついに降りだしてきましたが、京奈和道のおかげで、約二時間で宿坊『蓮華定院』に無事到着できました。この宿坊は真田家ゆかりの寺院として有名で、入り口

には真田家の家紋である「六文鏡」が描かれた提灯がかけありました。

開講式では、学園長先生から合宿の意義や激励のお言葉をいただき、昼食後、クラスごとに別れて四日間にわたる

勉強合宿がスタートしました。四学年では、できるだけ自主学習の時間を少なくし、可能な限り講義形式による実力養成と学力補充の両面から生徒に迫ることにし、ある先生は四日間で二十二時間も講義を行つてくれました。

二日目の午後八時からは、真言宗總本山宗務總長の添田隆昭住職(蓮華定院住職・本校卒業生ご父兄)より、約一時間にわたりユーモアを交えたご講演をいただきました。

二日目とはいって、勉強に疲れた心身にほつとする一時を与えていただいたように思えました。連日ほど小雨にみまわれた四日間でしたが、気候は一足早い秋のようで、そうした恵まれた学習環境のなか、生徒たちは四年生にふさわしい成果をあげてくれたようにも思いました。勉強合宿中、何よりも体調不良の生徒がでなかつたことは、引率者としては一番感謝すべきことでした。

五年生

“弱点克服”と “受験勉強の準備”

八月二十五日～八月二十八日の三泊四日

五年生は高野山・蓮華定院で学習合宿を行いました。



五年生の学習合宿の目的は弱点克服と受験勉強の準備です。合宿では授業と自学自習の形式で行いました。四日間のうちに、宿坊での生活になるので、食事やあいさつなどの礼儀作法の育成にもなりました。それぞれが、目標を持ち充実した四日間を過ごせたようです。また閉講式では、これから受験に立ち向かう覚悟で合宿を終えました。この高野山で得た経験は今後の学習に役立ててくされることでしょう。

「勉強合宿で、集中すると時間がたつのが早く感じました。」「今まで苦手だった範囲を克服することができてよかったです。」「友達と協力し合つて過ごした時間がとても楽しかったです。」「合宿での九〇分授業は長く感じたけど、学校へ戻つてから受けた授業がすごく短く感じました。」「部屋も広く快適で、何より朝、昼、晚のご飯がとてもおいしかったと思います。」「学習合宿で、わからなかつたところが、少し理解できるようになつてすごく嬉しかつたです。」「僕が一番おいしくと思ったご飯はくず鍋です。」「二年生になつたときには、大人数の部屋で過ごしました。みんなで掃除をしたり、飲み物を配つたりと協力できたことがたくさんありました。」「日頃、整理整頓が苦手だったけど、合宿中はきつちりできたと思うので良かったです。」

《生徒の感想》

事前に計画していったので、ある程度自分の思うように学習出来た。学習合宿を通して、これからは自分で学習時間を作つて受験を見据えた勉強をしていこうと思う。五年間の合宿での学習スタイルを普段の生活の中で実行していこうと思う。

私は、三泊四日は長いように思いましたが、この合宿ではそれほど苦とは思わなかつたことです。それは五年生になり少し受験勉強を意識し始めたせいか時間を有効活用できたと思います。これが最後の合宿となると本当に悲しく思います。合宿が終わり、これからペースを崩さず勉強していきたいです。受験を他人事とは思わず、身近に迫つて思います。合宿が終わり、このことをきちんと理解して、あと半年できることをがんばり来年からの受験に臨みたいと思います。



最後となつた学習合宿は

あつという間に終わつてしましました。合宿に行く前に、先生が「この学習合宿でお前らは受験生になる」と仰つていましたが、私は受験生の第一歩を踏み出せたかなと実感しています。この合宿は、本当に実りあるものでした。久しぶりに達成感を味わいました。家で勉強する際はこの合宿で得たことを思い出しながら、これからもがんばります。

全国高等学校総合体育大会出場

六月に行われた全国高等学校総合体育大会少林寺拳法の部県予選において、五年生の阪口陸君が「単独演武」で二位に入賞しました。少林寺拳法は今年度からインターハイ種目として正式に登録され、県予選で一位入賞を果たした阪口君は、見事に全国大会への出場権を手に入れました。

七月には奈良県選手団の一員として結団式にも加わり、本校でも激励会が開催されました。

翌日の本番では、いつも以上に緊張の面持ちでしたが、全国から集まつた強豪たちにも怯むことなく、最後の最後

まで素晴らしい演武を披露してくれました。惜しくも決勝進出は叶いませんでしたが、阪口君はこのかけがえの無い自らの経験を後輩たちに伝えられることを決心してくれたようで、帰校後は以前にも増して練習に励んでいます。阪口君のインターハイへの想いは、きっと後輩たちに引き継がれていくことでしょう。

阪口君、本当にお疲れ様でした。

編集後記

「何か持っていますね」。

高校野球、甲子園の優勝投手で、大学進学後も選手権大会優勝という輝かしい実績を持つ鳴り物入りでプロ入りした選手が、先日「言わなきやよかつた」と洩らしたそうです。大学選手権の優勝時に言つた、冒頭の言葉のことだそうです。

大学卒業時には「何か持つていてと言わわれていますが、今わかりました。それは友達です」とも言つっていました。私は、この発言を聞いた時少し違和感を感じたのですが、最近の「言わなきやよかつた」発言で、大学時代、既に冒頭の発言について後悔していたのではないかとう思いに至りました。

「何か持つていて」。一般的には「運」を指すものだと思います。「運」とは何でしょうか。「運」が良い・悪いなどとよく口にする言葉ですが、「運」は待つていて向こうからやってくるものだとは思えません。日頃の努力の積み重ねによって手繰り寄せるものではないかと思います。そして、自ら口にすることで逃げていくものかもしません。先の選手も日本一を勝ち取るまでの努力は並大抵のことではなかったと思います。しかし、「何か持つていて」の後怪我に泣かされ苦労しています。ようやく最近復調の兆しが見え始めています。試練を乗り越え、一流選手への道を再び昇り始めました。手ごたえを感じた今だからこそ「言わなきやよかつた」と素直に反省の言葉を口にすることができたのでしょうか。照れくさいことだと思いますが、

一日一日を大切に！「幸運」を勝ち取るために。